

2024年6月30日

エコアクション21 環境経営活動レポート

2023年度版
2023年1月～12月



株式会社 平田精機
HIRATA

株式会社平田精機の概要

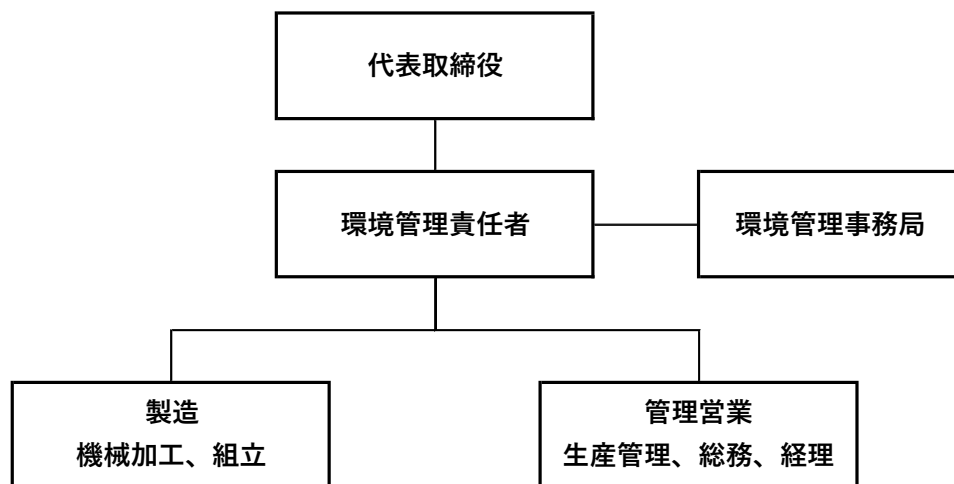
1. 事業の概要

- (1) 【事業者名及び代表者名】 株式会社 平田精機 代表取締役 藤元 佳子
- (2) 【所在地】 〒208-0023 東京都武蔵村山市伊奈平 5-8 1-2
- (3) 【事業内容】 機械加工 及び 組立
- (4) 【環境管理責任者】 藤元 絵美里
- (5) 【事業の規模】(2023 年 6 月現在)
主な事業：半導体製造装置部品、精密機器部品等の機械加工及び組立

2. 認証・登録範囲

- (1) 全社、全社員とする
- (2) エコアクション 2.1 推進体制は以下の通りである。

平田精機 環境経営実施体制 (2023 年 12 月現在)



※各担当者の役割、責任及び権限は『HSE-0511 実施体制』を参照。

3. 環境経営方針

平 田 精 機 環 境 経 営 方 針

基本理念

私たちは、地球環境との共生が企業としての最重要課題の一つであると認識し、事業活動のあらゆる場面における、環境保全への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に向けて企業としての責任を果たしていきます。

行動方針

1. 環境負荷の維持・低減

事業活動における環境負荷を継続的に維持します。

また、生産性の向上が環境負荷の低減に結び付くことを意識して、事業活動を推進してまいります。

- (1) 電気使用量、水使用量の維持
- (2) 廃棄物の削減と利用可能物のリサイクル
- (3) 不良率の低減、納期への柔軟な対応

2. 環境取組の推進・向上

体制を整備して全従業員が継続して環境改善活動を行います。

環境負荷・取組の把握と、社内外への情報伝達を行います。

3. 環境関連法規、自主基準の遵守

事業活動、製品に関する諸法律、規制及び協定を遵守します。

また、それらに加え、社内諸規定を制定し、自主的に取り組みます。

4. 緊急事態の未然防止

事故・汚染を未然に防止するとともに、発生時における被害の最小化に努めます。災害に備えて、日頃から従業員に災害時の対応を周知します。

- (1) 油・化学品の適正管理・適正廃棄
- (2) 油・化学品の流出・漏洩の防止
- (3) 災害時、社内にある危険物になり得る物の取り扱いを周知する

2 0 2 0 年 4 月 1 日
株 式 会 社 平 田 精 機
代 表 取 締 役 社 長 藤 元 佳 子

4. 環境経営負荷実績

2021 年 ～ 2023 年の環境経営負荷の実績を表－1 及びグラフに示す。

表－1 実績 (2021 年 ～ 2023 年)

No.	項 目	2021 年	2022 年	2023 年
1	CO ₂ 排出 (kg-CO ₂)	103,056	109,203	93,950
2	電 気 使 用 量 (kWh)	209,104	224,196	205,635
3	水使用量 (m ³)	263	296	277
4	廃 棄 物 等 排 出 量 (ton)	7.92	10.04	7.56
5	製品の不良率 (%)	0.50	0.60	0.53

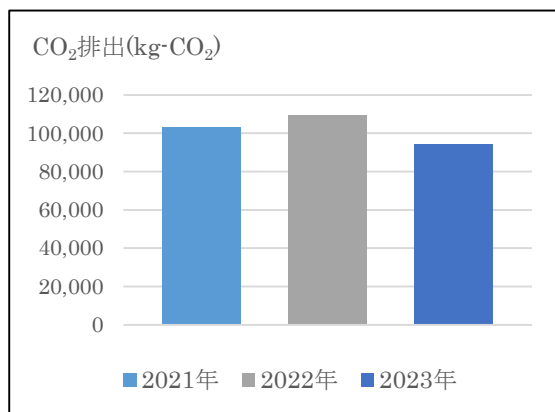
※CO₂ 排出の計算に使用した二酸化炭素排出係数は以下の通り。

電気事業者名：東京電力エナジーパートナー(株))

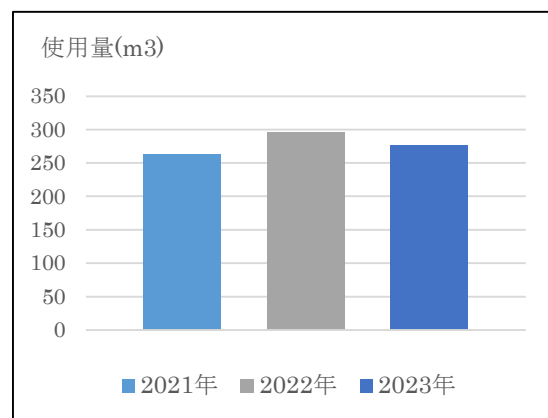
2021 年、2022 年：0.474kg・CO₂/kwh (2017.12.21 環境省公表の調整後排出係数)

2023 年：0.443kg・CO₂/kwh (2022.01.07 環境省公表の調整後排出係数)

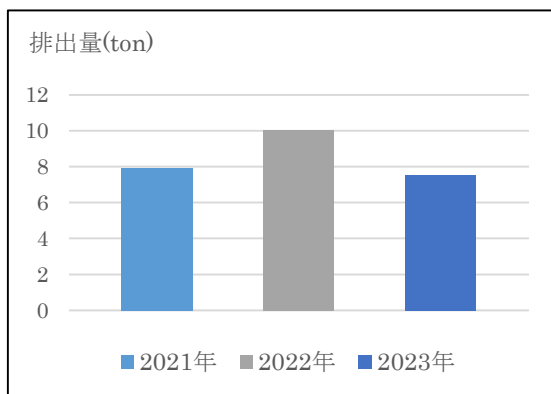
1. 二酸化炭素排出量の推移



2. 水使用量の推移 ※



3. 廃棄物等排出量の推移



5. 環境経営目標及び環境経営活動計画の内容

表－2 当年度の環境経営目標及び実績値

No.	項 目	基準値 (2022 年度実績をベース)	2023 年度 目標値 (△5～△2%)	2023 年度 実績値	目標値との 比較
1	CO ₂ 排出 (kg-CO ₂)	112,485	109,097	93,950	△13.88%
2	電気使用 (kWh)	246,620	239,221	205,635	△14.04%
3	水使用量 (m ³)	300	291	277	△4.81%
4	廃棄物等排出量 (ton)	11.00	10.67	7.56	△29.15%
5	製品の不良率削減	0.60	0.58	0.53	△8.93%

※CO₂ 排出の計算に使用した二酸化炭素排出係数は以下の通り。

電気事業者名：東京電力エナジーパートナー(株)

0.443kg・CO₂/kwh (2022.01.07 環境省公表の調整後排出係数)

表－3 2023 年度 (2023 年 1 月 ～ 2023 年 12 月) の環境経営活動計画

環境経営方針に基づく施策項目		環 境 目 標	実 施 方 法
環境経営 負荷の維持・低減	省エネ推進	1、電気使用量削減 削減目標：3%	月次電気使用量を集計、把握 温度設定により（夏季は27℃、冬季は20℃）空調設備の運転管理、休憩時の消灯を継続実施 情報機器（パソコン等）は省エネモードで使用
		2、水使用量削減 削減目標：3%	月次水使用量を集計、把握 必要時のみ水使用を遵守
	生産効率の改善・向上	3、レイアウト見直しによる生産効率の改善	各工程において、材料や工具、製品などの配置と動線を見直すことにより、生産効率を改善する
		4、不良率の低減 目標：3%	図面の誤認識、コンピュータへの入力誤りがないよう確認を徹底
	廃棄物とリサイクル品	5、廃棄物排出量削減 削減目標：3%	廃棄物排出量を集計、把握 従来からのゴミを発生しない取組を継続実施
		6、可燃ゴミ、不燃ゴミ、リサイクル品、廃油の分別の徹底	可燃ゴミ、不燃ゴミ、リサイクル品の廃棄場所、保管場所を設置 契約状況の実施確認

環境経営方針に基づく施策項目		環 境 目 標	実 施 方 法
	グリーン購入の推進	7、「グリーン商品」を選択購入	「グリーン商品」選択購入の継続および不要なものを買わない取組
	製造業としての工程改善	8、製造工程における不良率の低減を継続し、省エネを推進する	不良発生を防止するために図面の誤認識、コンピュータへの入力誤りを減らす。
	会社としての取組	9、取組、ルールの定着化及び改善	取組、ルールの定着を確認し見直しを行い、改善に取り組む
	環境関連法規への対応	10、化学物質使用量の削減	PRTR 制度対象物質名を使用している洗浄剤の使用を最低限にするよう周知する（使用場所を限定する）
			洗浄剤について不要な在庫を持たないように管理する
環境経営取組の推進・向上	全従業員の参加	11、社員側の意見を積極的に取り入れる	社員の意見をまとめて資料として配布し、実行可能なものは順次実行していく
	納入先	12、納入先の調査、依頼に応じて 100%回答	アンケートに回答 (情報収集と外注先調査)
	仕入れ元・委託先	13、通知の発行に対する回答 100% 製品納入時の簡易梱包を依頼 来社時のアイドリングストップを確認	通知の発行に対する回答の実施 製品納入時の簡易梱包を依頼 アイドリングストップの継続的实施
	近隣企業・商工会議等、地域住民	14、近隣の方々の協力	お祭りなどの地域行事では、来客用の駐車場を貸す、また神輿車を工場内に一定期間、保管する

6. 環境経営目標の達成状況及び環境経営活動計画の取組結果・評価及び次年度の取組内容

2023 年度（1～12 月）環境経営活動計画の各項目について、取組結果の評価を行った。

表－4 2023 年度 環境経営目標の達成状況 環境経営活動計画の取組結果・評価
（2023 年 1 月～12 月の活動を目録値と比較）

環境経営負荷の維持・低減

環 境 目 標	実 施 方 法	評 価	取組結果と次年度の取組内容
電気使用量削減	月次電気使用量を集計、把握	○	電気使用量：14.04%削減 ・2023 年 7 月に 2 台の機械装置を導入、7 月前に 1 台処分した。機械稼働による最大電気使用量は増加しており、キュービクルも増設している。 ・働き方改革の取り組みの一環として、生産性の向上を意識して動くよう周知している。一人多台持ちによる機械加工も定着してきている。残業時間の減少により、機械稼働や現場の照明にかかる電気代が削減できている。 ・2023 年下期より受注量が減少しており、前述の働き方改革の取組とは別に機械稼働が減っているため、電気使用量も減少している。経営の観点から、新たな受注を獲得するための営業活動を実施していく。 ・その他、電気のコマメな消灯（つけっぱなしにしない）、冷暖房の温度管理は継続して実施していく。
	温度設定により（夏季は 27℃、冬季は 20℃）空調設備の運転管理、休憩時の消灯を継続実施		
	情報機器（パソコン等）は省エネモードで使用		
水使用量削減	月次水使用量を集計、把握	○	水使用量：4.81%削減 ・水溶性の油を使用していること、水を使用する機械装置（ワイヤーカット等）を使用していることにより水の使用量は多い。 ・切粉が溜まることで切削油が金属の酸化によって変色し、油交換（＝油を薄める水も交換する）が必要となる。各自で酸化を防ぐための清掃を行っており、水の使用は必要最低限にとどめている。 ・その他の水の使用（手洗い、トイレ）では必要時のみの水使用を遵守するよう呼びかけている。今後も使用量削減の取り組みは継続する。
	必要時のみ水使用を遵守		
レイアウト見直しによる生産効率の改善	各工程において、材料や工具、製品などの配置と動線を見直すことにより、生産効率を改善する	○	・各工程において、材料や工具、在庫などのレイアウトを見直すことにより、生産効率の改善を実施している。機械は専門の業者に依頼しないと移動することができないため、新たな機械の導入時に配置の見直しを行い、少しずつ改善している。2023 年に機械を導入したことを受けてレイアウトの見直しを継続している。

環 境 目 標	実 施 方 法	評 価	取組結果と次年度の取組内容
			・ひとりで多台持ち（ひとりで何台かの機械装置を使用して製造を行うこと）を目標としているため、更に各作業者が作業のしやすさ等、生産効率の改善を意識し、引き続き提案・改善を実施する。
不良率の低減	図面の誤認識、コンピュータへの入力誤りがないよう確認を徹底	○	<u>不良率：8.93%改善（目標 0.58% → 実績 0.53%）</u> ・図面の誤認識、コンピュータへの入力誤りがないように確認すること、検査は主に抜き取りで行うため加工担当者が製品の寸法を測って、完成品であることを確かめるよう継続的に周知している。 - 不良品は、材料だけでなく人件費や電気代の無駄が発生するため、不良が経営と環境活動のいずれにも影響があることを周知していく。 ・ほとんどの加工者は前述の取組を徹底しているが、出来ない者もいるため、繰り返しアナウンスしていく。 ・高精度品の場合、図面通りに加工しても寸法や精度を計測することが難しい箇所があり、納品後に不良が発覚するケースがあった。社内の取組だけでは限界があるため、今後は検査方法の見直しも検討していく。
廃棄物排出量削減	廃棄物排出量を集計、把握 従来からのゴミが発生しない取組を継続実施	○	<u>廃棄物排出量：29.15%削減</u> ・機械加工で発生する切粉のうち、金属の種類がバラバラで回収費用が発生するもの（混ざり粉）を廃棄物としてカウントしている。 2023 年は受注量の減少、大きな材料から切削する品物の注文が少なかったため、相対的に切粉排出量が減少した。 ・廃油は3 か月～半年ごとに回収してもらう。廃油の量も機械の稼働量に比例する。2023 年は受注量の減少に伴い、廃油の量も減少した。 ・不良発生の改善に取り組み、ゼロを目指して日々の意識付け（加工者による確認）を周知徹底していく。 ・従来からのゴミが発生しない取組を継続実施する。 ・廃材（切断材料の残り）の再利用を引き続き進める。
可燃ゴミ、不燃ゴミ、リサイクル品、廃油の分別の徹底	可燃ゴミ、不燃ゴミ、リサイクル品の廃棄場所、保管場所を設置 契約状況の実施確認	○	・従来からのゴミが発生しない取組を継続実施 ・廃油を「油性／水溶性」に分けた事で、「油性廃油」を削減（環境負荷の軽減） ・紙類のリサイクルを徹底して行う。 ・紙類はシュレッダーで細かく切って薄い袋に入れ、梱包材として利用する。新聞紙や不要な紙は従業員等に呼び掛けて集めている。

環 境 目 標	実 施 方 法	評 価	取組結果と次年度の取組内容
製造工程における不良率の低減を継続し、省エネを推進する	不良発生を防止するために図面の誤認識、コンピュータへの入力誤りを減らす。	○	・不良発生を防止するために図面の認識、コンピュータへの入力誤りを減らすよう朝礼、社内報等で呼びかけた ・今後とも工程改善に取り組み、生産効率の向上を目指し、省電力・省エネルギーにつなげていく
取組、ルール の定着化及び 改善	取組、ルールの定着を確認し見直しを行い、改善に取り組む	○	・取組、ルールが実施されているか確認し、見直しを行う
化学物質使用 量の削減	PRTR 制度対象物質 名を使用している洗 浄剤の使用を最低限 にするよう周知する 洗浄剤について不要 な在庫を持たないよ うに管理する	△	化学物質使用量：12.61%増加 ・当社で使用する洗浄剤に含まれる化学物質が 2023 年より PRTR 制度の対象物質に該当することになり、対応すべき項目として環境目標に追加した。 ・洗浄剤は機械加工後の品物を納品のために洗浄する際に使用している。洗浄が必要な品物の受注量に左右される。2023 年は全体の受注量は減少したが、追加工等の依頼は増えており、洗浄剤自体の使用は増加している。 ・不容易に使用しないよう、使用場所と使用者を限定する取組を行っていく。また、不要な在庫を持たないよう、在庫管理を徹底していく。

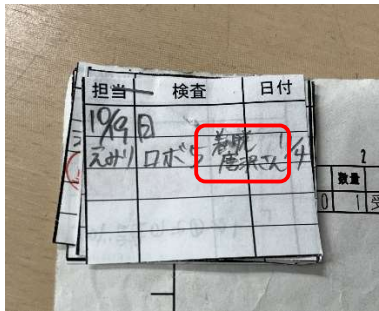
環境取組の推進・向上

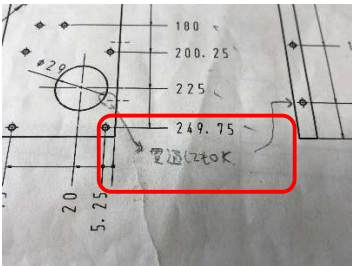
目 標	実 施 方 法	評 価	取組結果と次年度の取組内容
社員側の意見を積極的に取り入れる	社員の意見をまとめて資料として配布し、実行可能なものは順次実行していく	○	・社員の意見を資料として配布し、効果的なアイデアは順次実施していく。清掃当番表は印刷して配布していたが、社員のアイディアにより当番札（マグネット等）を次の当番に渡す方法を採用した。その結果、紙の無駄の削減及び清掃忘れの防止につながった。今年度も継続していく。 ・次年度以降も、社員の意見を取り入れる取組を継続（朝礼、社内報、環境リーダーへ定期的にヒアリング）
納入先の調査、依頼に応じて 100% 回答	アンケートに回答（情報収集と外注先調査）	○	・納入先の調査に対し、100%回答した ・納入先の調査に対し迅速かつ適切な回答ができるよう、資料・データ等整理していく
通知の発行に対する回答 100%	通知の発行に対する回答の実施	○	・通知の発行に対し、100%回答した ・取引先の理解を得て、来社時のアイドリングストップを実行している。

目 標	実 施 方 法	評 価	取組結果と次年度の取組内容
製品納入時の簡易梱包を依頼	製品納入時の簡易梱包を依頼		
来社時のアイドリングストップを確認	アイドリングストップの継続的实施		
近隣の方々の協力	お祭りなどの地域行事では、来客用の駐車場を貸す、また神輿車を工場内に一定期間、保管する	○	・近隣の行事の際に来客用の駐車場、駐輪場を貸している。

7. 環境経営活動の具体例

2023年1月～12月における具体的な環境経営改善活動の事例を紹介する。

項 目	活 動 例	
不良率の低減	・リピート品の図面に、前回の担当者名や検査結果を記入した「検査票」を添付して、過去の不良等を確認できるようにしている。 	・加工担当者以外に着脱をした人も検査票に記名する。着脱だけ代わりに行う場合も責任感を持ってもらうため、また不良発生時の工程確認に利用する。 

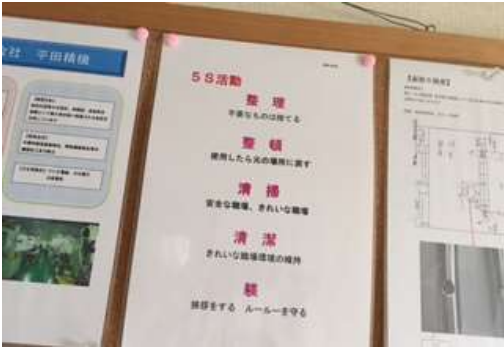
項 目	活 動 例
	・ 図面には前回の注意事項が付記されているので、繰り返し使用する。 
	・ 未加工による不良を防ぐために、社内の最終加工者が完了したことを示す『完』の文字を書いたメモを付ける。 
レイアウト見直しによる生産効率の改善	・ 安全で人員・物品の移動がしやすく、コミュニケーションも取りやすいレイアウトにすることで、生産性の向上を図る ・ 機械の特性上、防塵が必要な場合は透明なカーテンをつけたり、パーテーションを立てて生産効率の向上をはかる。またカーテンは保温の役割もあり、電力使用量の削減につながる。 

項 目	活 動 例
	 ・ 第二工場が稼働して、大型の機械装置を移動して余裕を持ったレイアウトが可能になった。 
廃棄物の削減と リサイクル	・ 段ボールのリサイクルを推進している。   ・ 段ボールを大きな製品を送る際の梱包材（箱の角や底用の緩衝材）として使用している 

項 目	活 動 例
廃棄物の削減と リサイクル 環境経営取組の 推進・向上	・材料の残りは残材置場に保管して再利用する（材料として使用するだけでなく、治具を作る際に使用している） 
	・新聞紙や不要な紙類は、印刷が失敗したコピー用紙や不要な郵便物を社内で集めるほか、従業員等に呼びかけて集めている。 ・コピー用紙等は梱包緩衝材として再利用 
	・品物や機械を拭くために使用するウエスは、業者から購入するほか、不要なタオルや衣類を切って使用している。 
	・ゴミの分別のためゴミ分類の見直後、継続実施。なおゴミ箱も汚れた場合にすぐに取り換えられるよう、段ボール製のものを使用。

項 目	活 動 例
	
	・休憩場所にも空き缶、ペットボトル用のゴミ箱を設置して、分別を実施している。 
	・廃油を「油性／水溶性」に分けた事で、「油性廃油」を削減 (環境負荷の軽減) (写真左：油性／写真右：水溶性) 

項 目	活 動 例
	・ 材料を製品に機械加工した際に出る切粉を材質ごとに分けている。定期的に業者に引き取ってもらう。
	・ 整理整頓に取り組む社員 ・ 社内の掲示物で日頃から環境改善に対する意識を高めている

項 目	活 動 例
	(写真は 5S 活動に関する掲示物) 

8. 中期目標

表－5に2022年度の実績値を基準にした中期目標を示す。

表－5 中 期 目 標（基準値及び目標数値）

環境経営目標	基準値 *1	環境経営目標(対基準値) *2					
		2024 年 運用期間		2025 年 運用期間		2026 年 運用期間	
電力使用量削減 *3 *4		3.0%	削減	3.0%	維持	3.0%	維持
	246,620 kWh	239,221	kWh	239,221	kWh	239,221	kWh
	109,253 kg-CO ₂	105,975	kg-CO ₂	105,975	kg-CO ₂	105,975	kg-CO ₂
燃料使用量削減							
ガソリン		3.0%	削減	3.0%	維持	3.0%	維持
	1,250 ℓ	1,213	ℓ	1,213	ℓ	1,213	ℓ
	2,902 kg-CO ₂	2,815	kg-CO ₂	2,815	kg-CO ₂	2,815	kg-CO ₂
液化石油ガス(LPG)		8.0%	削減	9.0%	削減	10.0%	削減
	110 kg	102	kg	101	kg	100	kg
	330 kg-CO ₂	304	kg-CO ₂	300	kg-CO ₂	297	kg-CO ₂
CO2 排出削減		3.0%	削減	3.0%	削減	3.0%	削減
	112,485 kg-CO ₂	109,094	kg-CO ₂	109,091	kg-CO ₂	109,087	kg-CO ₂
廃棄物排出量削減		3.0%	削減	3.0%	維持	3.0%	維持
	11.00 Ton	10.67	Ton	10.67	Ton	10.67	Ton
水使用量削減 *5		3.0%	削減	3.0%	維持	3.0%	維持
	300 m ³	291	m ³	291	m ³	291	m ³
製品の不良率低減 *6		3.0%	削減	3.0%	維持	3.0%	維持
	0.60%	0.58%	%	0.58%	%	0.58%	%
化学物質の使用量削減 *7		3.0%	削減	3.0%	維持	3.0%	維持
	260 ℓ	252	ℓ	252	ℓ	252	ℓ

*1：基準値は2022年1月～12月の実績値を基礎とする。

*2：運用期間は2023年度（2023年1月～12月）より設定している。

*3：電力による二酸化炭素排出係数は0.443kg・CO₂/kwh（環境省が2022年1月に公表した「電気事業者別排出係数」の東京電力エネルギーパートナーの調整後排出係数（残差））

*4：電力消費量については、機械装置を導入を予定していることから、消費量が増加することを考慮して目標値を設定している。

*5：水道使用量については、水溶性の油を使用していることから機械装置の規模や台数に伴って使用量が増加する。

*6：不良率は、不合格品数量÷検査品数量で算出している（単位は%）。

*7：化学物質の使用量は、当社で取り扱いのある洗浄剤に含まれるPRTR制度の対象化学物質（「シクロヘキサン」と「ノルマルヘプタン」）をもとに算出している。

*8：灯油は直近3年の実績値がゼロであり、現状使用予定がないため目標から削除。

表－6 に中期目標達成のための取組を示す。

表－6 次年度以降の取り組み内容

目 標	2024 年度 (2024 年 1 月～12 月)	2025 年度 (2025 年 1 月～12 月)	2026 年度 (2026 年 1 月～12 月)
電気使用量の削減	電気使用量削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）	電気使用量削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）	電気使用量削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）
水使用量の削減	水使用量現状削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）	水使用量現状削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）	水使用量現状削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）
レイアウト見直しによる生産効率の改善	各工程においてレイアウトを見直すことで生産効率を継続	各工程においてレイアウトを見直すことで生産効率を継続	各工程においてレイアウトを見直すことで生産効率を継続
不良率の低減	不良品の加工時間、原価、不良の発生理由を分析して、不良品が与える影響を分析 不良率を低減するために図面の誤認識、コンピュータへの入力誤りがないよう確認を徹底	不良品の加工時間、原価、不良の発生理由を分析して、不良品が与える影響を分析 不良率を低減するために図面の誤認識、コンピュータへの入力誤りがないよう確認を徹底	不良品の加工時間、原価、不良の発生理由を分析して、不良品が与える影響を分析 不良率を低減するために図面の誤認識、コンピュータへの入力誤りがないよう確認を徹底
廃棄物排出量削減	廃棄物排出量現状削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）	廃棄物排出量現状削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）	廃棄物排出量現状削減状況の維持（工程変更、生産動向により補正）
可燃ごみ、不燃ごみ、リサイクル品、廃油、分別徹底	可燃ごみ、不燃ごみ、リサイクル品、廃油、切粉の分別の徹底	可燃ごみ、不燃ごみ、リサイクル品、廃油、切粉の分別の徹底	可燃ごみ、不燃ごみ、リサイクル品、廃油、切粉の分別の徹底
製造工程における生産性向上（短時間で製品を仕上げる、誤加工、未加工、精度、寸法誤り、傷、加工ゆがみによる不良品率の低減）	生産性改善を継続実施、省エネ（電気使用量、水使用量の削減）を推進	生産性改善を継続実施、省エネ（電気使用量、水使用量の削減）を推進	生産性改善を継続実施、省エネ（電気使用量、水使用量の削減）を推進
取組、ルール of 定着化 及び 改善	ルールの定着化と環境取組の向上を継続	ルールの定着化と環境取組の向上を継続	ルールの定着化と環境取組の向上を継続
各社員の意見を積極的に取り入れる	社員の意見を資料として配布し、効果的アイデアは順次実施していく	社員の意見を資料として配布し、効果的アイデアは順次実施していく	社員の意見を資料として配布し、効果的アイデアは順次実施していく

目 標	2024 年度 (2024 年 1 月～12 月)	2025 年度 (2025 年 1 月～12 月)	2026 年度 (2026 年 1 月～12 月)
納入先の調査、依頼に応じて即時回答可能なデータの整備	即時回答可能なデータの整備	即時回答可能なデータの整備	即時回答可能なデータの整備
仕入先の環境取組水準の向上を支援	製品納入時の簡易梱包を依頼。アイドリングストップの継続的实施	製品納入時の簡易梱包を依頼。アイドリングストップの継続的实施	製品納入時の簡易梱包を依頼。アイドリングストップの継続的实施
化学物質使用量の削減	PRTR 制度対象物質名を使用している洗浄剤の使用を最低限にするよう周知する（使用場所を限定する）	PRTR 制度対象物質名を使用している洗浄剤の使用を最低限にするよう周知する（使用場所を限定する）	PRTR 制度対象物質名を使用している洗浄剤の使用を最低限にするよう周知する（使用場所を限定する）
	洗浄剤の在庫管理を徹底して、不要な在庫を持たないように管理する	洗浄剤の在庫管理を徹底して、不要な在庫を持たないように管理する	洗浄剤の在庫管理を徹底して、不要な在庫を持たないように管理する

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物関係及び労働安全衛生関係であります。これらの法律及び条例に基づき、適切に対応しており、この3年間違反はありません。また、係争している訴訟及び近隣からの苦情はありません。

表－7 該当する法規制の名称

区 分	法規制名称	区 分	法規制名称
水質汚濁	武蔵村山市下水道条例	廃 棄 物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)
大気汚染	自動車 NOx.PM法		武蔵村山市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例
騒 音	騒音規制法		家電リサイクル法
振 動	振動規制法		自動車リサイクル法
製 品	製品部材の含有物質基準	安全	消防法
温暖化	フロン排出抑制法		労働安全衛生法

10. 代表者による全体の評価と見直し

私たち平田精機は、技術力を高め高能率を基礎として納入率の高い信頼される会社を目指しています。これは当社の経営理念ですが、「信頼される会社」になるためには製造業の基本となる技術、精度を高めるだけでなく、社会的責任を担うものとして環境への配慮が必要であると考えております。



エコアクション21の審査の受審は今年で18年目になります。当社では日ごろから意識している『生産性の向上』を軸にして環境面と経営面の両方を実現するための行動を考えるようにしておりますが、審査を受けることでより環境経営活動への意識が高まると感じております。また、環境及び経営の両方の視点で活動を進めることは、より強い動機付けが可能となるため（例えば、廃棄物量の削減（環境）・原価改善（経営）のために「不良率を改善する」）、より一層意識してまいりたいと思います。

今年度の結果を受けて、改善・検討できるところはまだあると感じております。日頃から周知していることも、社員が行動に移してくれるように、そして結果が出るように改めて伝えていきたいと思います。

また、環境だけでなく変化の激しい社会情勢や経済にも絶えず意識を向けて、環境負荷削減に対する取り組みを推進していく所存です。

本環境経営活動レポートでは、2023年1月から12月までの1年間の活動の結果を中心に紹介致しました。皆様方にご理解いただくとともに、本環境経営活動レポートに対して、ご批評、ご意見を頂ければ幸いです。

代表取締役社長 藤元 佳子